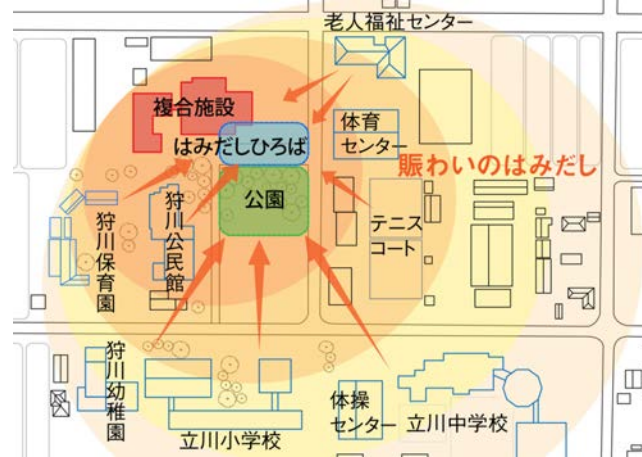


基本方針 複合のちからで地域をわかし地域を紡ぐ

— 大人も子どもも挑戦する場 地域がつながり自律する先進的なまちづくりをめざして—
急速なスピードで変化する時代の流れに負けず、住民のエネルギーを最大限に引き出し、時代と共に歩む複合施設
地域に必要な情報を収集・発信し、住民・行政・企業が一体となって持続可能なまちづくりを実現できる複合施設

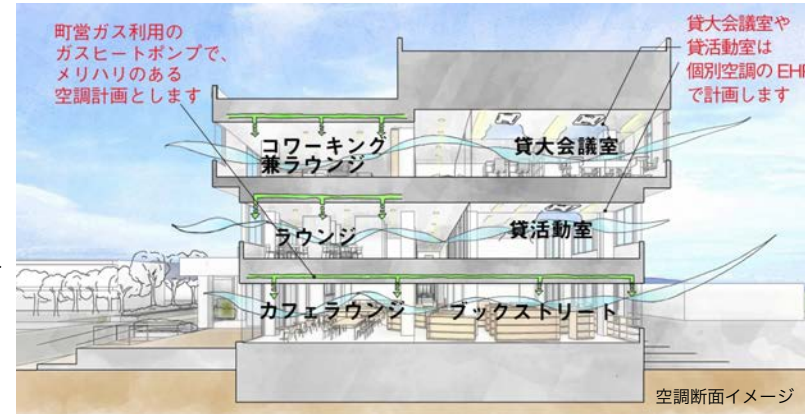
1 地域活性化の拠点

- 人々の足が自然と一歩この施設へ出向くような、様々な「しかけ」を計画します。
- テラスにオーニングテント(ひさし)を設置し、テーブルや椅子を並べ、立ち寄りたくなるような場の雰囲気をつくり外部の流れを引き寄せます。
- 各エリアの境界を明確にしないことで、来館者の興味や関心を惹きつけます。
- 内と外の繋がりを深めながら、住民の賑わいや地域の活動が広域にわたって波及していく相乗効果をはかります。
- 将来の組織機構改革や人口変動、運営の転換期にも柔軟に対応できるよう、エリア区分は家具によるレイアウトやパーテーションを利用し、柔軟性のある空間構成とします。
- 機能性・効率性を考慮しながら、既存の建物の形状を極力活かし、建設費用を抑制する計画とします。



2 利用しやすく親しみのある施設

- 1階は来館者の窓口となる中央カウンターを中心に各エリアを配置し、特に利便性が必要となる機能を集約します。
- 2階は予約制の室とフリースペースに分け、多様な地域活動ができるスペースとして計画します。
- 3階は大規模な集会スペースや、貸オフィス・コワーキングスペースを計画します。
- エントランス(正面玄関)へ続くスロープは、これまでよりも緩やかな勾配のスロープへと改修し、体の不自由な方やお年寄りがスムーズに出入りできるよう配慮します。
- 極力光や空気の流れを遮らないレイアウト、家具の高さを設定し、既設の開口部を活かして自然光や新鮮な空気を有効に取り入れることができる計画とします。



3 経済的な施設

- 町営ガス利用のガスヒートポンプで高効率化と省エネルギー、快適化をはかります。
- メリハリのある配置計画と利用形態に合わせた空間の構成で、部屋毎の空調ができる個別分散方式も採用し、無駄な運転を無くします。
- 発光効率の良いLED照明の全体採用で照明電力の削減を行います。さらに、タスク照明(部分的に照らす照明)で補完することで、アンビエント照明(空間全体を照らす照明)による照度を抑え、省エネルギー化をはかります。
- 衛生器具は超節水機器を積極的に採用します。老若男女問わず使いやすい操作性の良い機器を選定し、さらに維持管理のしやすさを考慮します。



4 避難所としての機能

- 災害時には避難場所として役割を果たせる施設となるよう計画します。1Fはテラスに面したサッシを掃き出しサッシに取り替え、混雑が予想される避難時の住民の出入りや災害物資の搬入を円滑に行えるようにします。
- 空間を可動家具で仕切ること、避難時の住民のプライバシーに配慮したレイアウトや状況に応じた居住スペースの構成が可能な計画とします。
- 既存の和室を活かした対応ができるようにし、ストレスが軽減される避難生活ができるようにします。



外観イメージ



1階内観イメージ

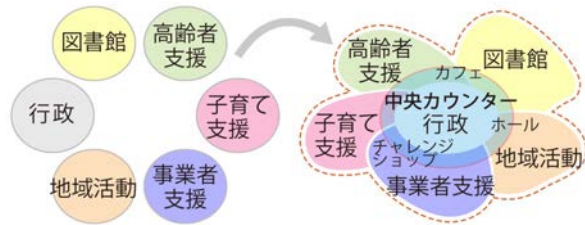
計画概要

計画地：山形県東田川郡庄内町狩川字大釜2番地
敷地面積：9,343.91㎡(旧保健センター 2,586㎡を含む)
地区計画：都市計画区域外 用途地域：区分なし
防火地域：建築基準法第22条に規定する区域
日影規制：なし

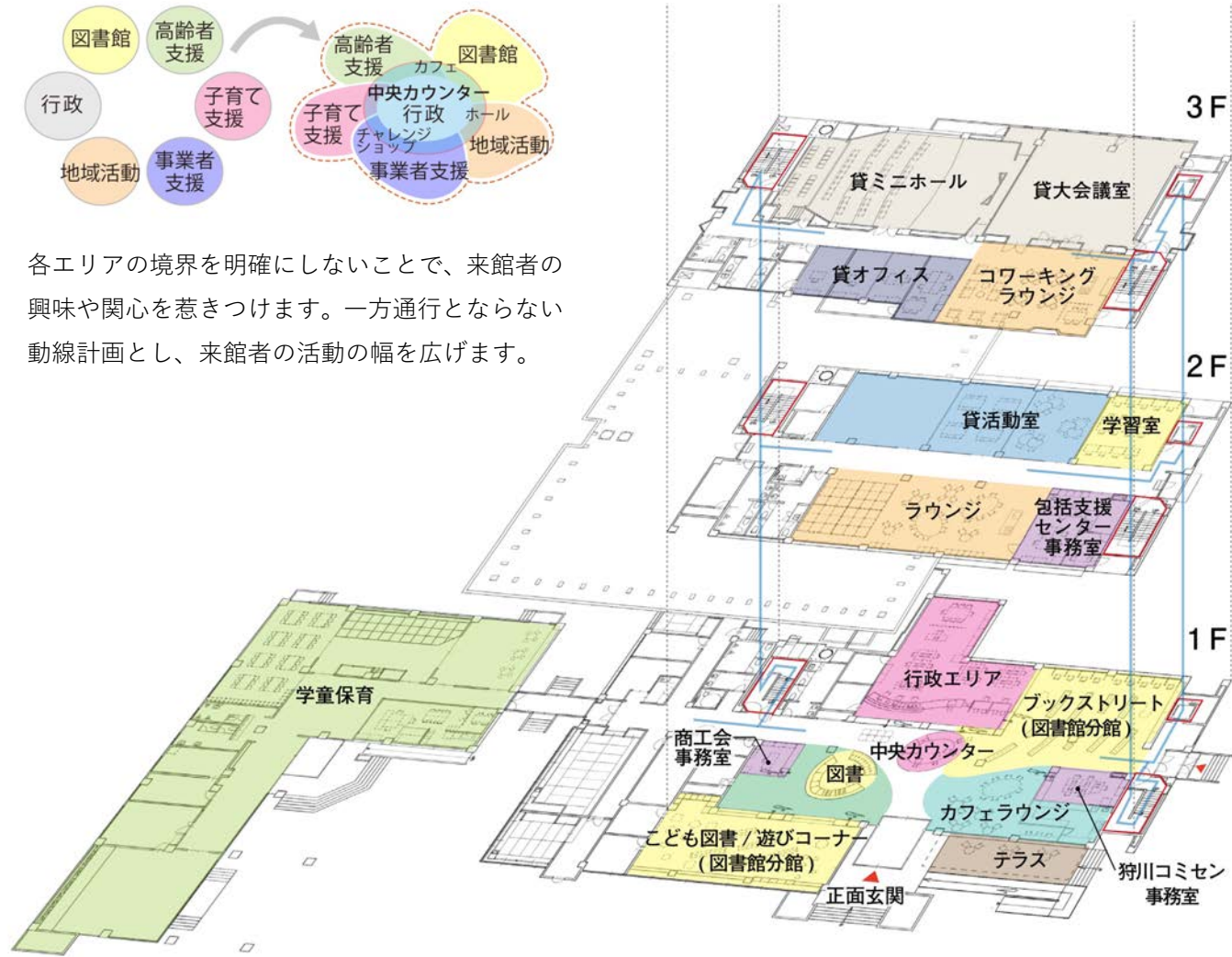
建物概要

立川総合支所： 昭和54年建設
鉄筋コンクリート造 3階建(一部4階建)
延床面積 2,732㎡

旧立川保健センター： 昭和58年建設
鉄筋コンクリート造 平家建
延床面積 585㎡

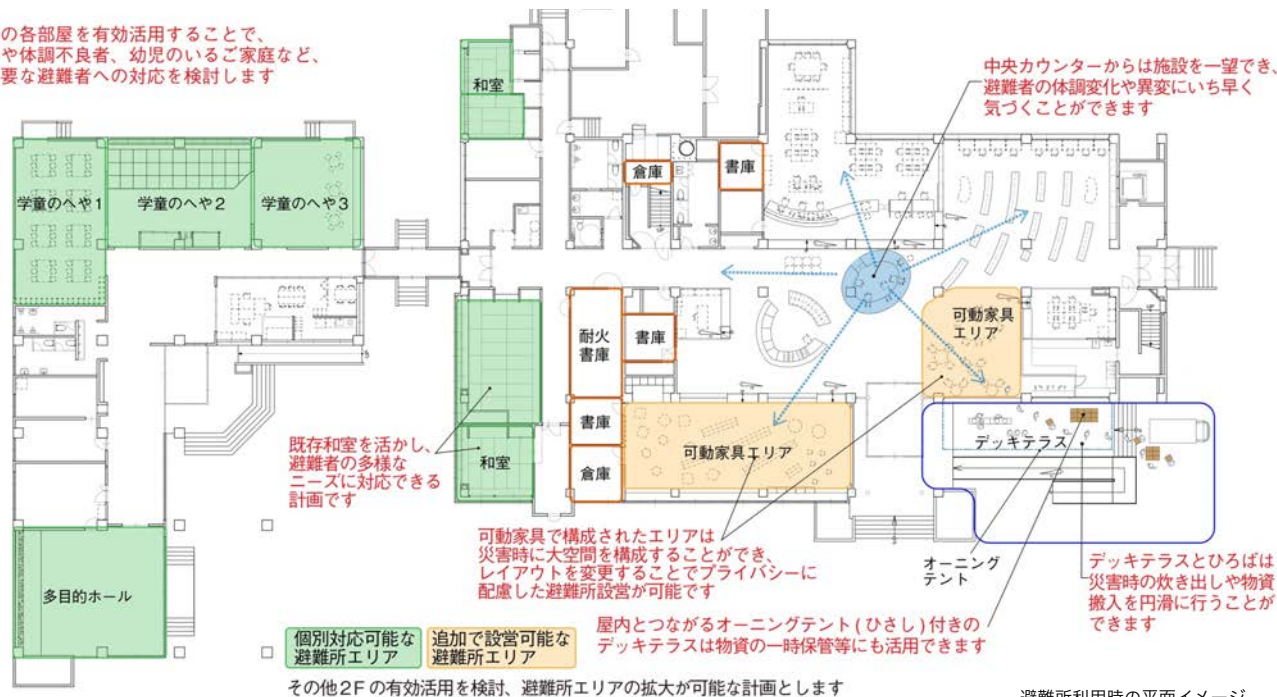


各エリアの境界を明確にしないことで、来館者の興味や関心を惹きつけます。一方通行とならない動線計画とし、来館者の活動の幅を広げます。



アクセソロジー
(階別エリア構成図)

学童保育の各部屋を有効活用することで、お年寄りや体調不良者、幼児のいるご家庭など、個室が必要な避難者への対応を検討します



避難所利用時の平面イメージ

全体空間構成

- エレベーターの新設により利便性を高めます。
- 既存階段2箇所を利用した各フロアの動線を考慮し、災害時や非常時にも対応できるように計画します。
- 管理シャッター等により、セキュリティに配慮し、時間別の利用形態に対応できる計画とします。

各フロア構成と特徴

3F 貸オフィス/貸ミニホール/貸大会議室/コワーキングスペース兼ラウンジ

- 大規模な集会などの活用スペースとして計画します。
- 貸オフィス・コワーキングスペースを確保し、テレワークやサテライトオフィス等の仕事を支援します。
- 24時間出入口を計画し、3階オフィスエリアへの動線を確保します。
- 議場は面影を残した貸ミニホールへとリノベーションします。かつて議場であった心地よい緊張感と一体感を継承しながら再び輝く場として生まれ変わらせます。



2F 貸活動室/学習室/地域包括支援センター/ラウンジ

- 個人から団体まで、様々な活動を後押しするスペースを計画します。見晴らしが良く、何かにじっくり打ち込んだり深いコミュニケーションを育む場として最適です。
- 予約制の室とフリースペースとに分け、多様な人数、多様な活動に 대응します。
- 地域包括支援センターを配置し、フロア全体の様子も把握できるようにします。
- パーティションは透明性のあるものを利用し、フロア全体を風通しの良い雰囲気にします。



1F 行政エリア/図書館分館/こども図書・遊びコーナー/カフェラウンジ/中央カウンター/学童保育

- 視認性を高め各機能が緩やかにつながり、一方通行とならないレイアウトです。
- 来館者の窓口となる中央カウンターを中心に各エリアを配置し、特に利便性が必要となる機能を集約します。
- 町民が自由・気軽に立ち寄れる機能を中心に配置します。
- 気軽に立ち寄れるカフェ機能を入口付近に計画します。
- こども図書・遊びコーナーは靴をぬいで入れるようにします。お絵かきコーナーや、スクリーンなどが設置できるような壁面も計画します。
- プライバシーやセキュリティが必要な行政窓口は奥へ配置します。



災害時避難所として機能する施設計画

- 非常時であっても、避難者の最低限の居住性が維持される照明や冷暖房の設定を行います。
- 既存の和室を活かし、高齢者や体調不良者、体が不自由な方などのニーズに応えられる計画とします。
- 自家発電設備は、既存の自動切替盤を更新し、非常時や停電時に備えた仕様とします。
- 災害時の避難拠点としての機能が一定時間維持・継続できる計画とします。